

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100167		
法人名	有限会社田代総合サービス		
事業所名	グループホームきずな		
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目41-1 (電話) 093-483-1501		
自己評価作成日	平成 2 年 5 月 31 日	評価結果確定日	令和 2 年 8 月 11 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念である利用者様一人一人の想いを尊重し、利用者様がやりたいときにやりたいことができる環境作りに力をいれています。また、場所が、閑静な住宅地であり、車の往来も少なく、畑や木々に囲まれ、毎日のどかに過ごしています。施設特有の臭いの無い空間であるよう環境整備を行い、利用者様と共に手指訓練目的で毎月作成した制作物の展示をし季節感を感じて頂いています。利用者様の居室は、今まで自宅で愛用してきた家具や、生活用具を設置していただき、極力自宅と同じような空間をつくり、安心して生活ができる様に取り組んでいます。職員においては、定期的に勉強会や研修会に参加し認知症に対する知識と技術を高め、日々の介護に生かせるよう努力しています。職員と利用者様が家族のように毎日を穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 6 月 23 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、閑静な住宅地区の高台にあり、周囲には公園や畑がある。近くの住民の方から花や野菜などを届けられたり、地域の行事、文化祭や敬老会に参加を要請され、参加している。外出時には、近くで生活をされていた利用者からなじみの場所による依頼がされることもある。地域との交流が継続されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の利用者様のやりたい時にやりたい事や思いを理解する介護。また、身体拘束を行わず、地域活動に積極的に参加する理念を挙げ、職員の目に入るところに掲げて全員がその理念を目標にし、実践できるように日々努力している。	理念の実現について、職員会議などで検討している。グループホームで安心した生活を維持して、利用者が地域の中でやりたい時にやりたいことができるような環境づくりを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、ボランティアによりギター演奏やバンド演奏をして頂いたり、地域交流センターの文化祭に出展するなどして交流をはかったり、近隣の中学校の福祉体験を受け入れ、レクレーションを通して交流を図っていたが、コロナウィルスの影響で2月からは実施できていない。	地域での様々な行事や活動、市民センターの敬老会や文化祭などにも参加され、自治会に加入している。中学校の福祉体験にも協力しており、施設主催行事のそうめん流しやクリスマス会に地域の方を招待している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の面会時には必ず現状をお伝えし、認知症の人の理解や支援を行って頂くようコミュニケーションを図っている。また、認知症の方にもできることがあることを知って頂くため、制作物を地域の文化祭に展示している。しかし、コロナウィルスの影響で難しい為、きずなの活動を知って頂くため、ブログの投稿で情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の開催のため、2か月間の状況報告と、対応に困っている事案などを相談し、意見やアドバイスをいただきサービスの向上に努めている。しかし、地域の方やご家族の参加が無く、どのように参加を促すかが常に課題である。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。行政からは地域包括の職員が参加している。利用者も参加し、行事や日常生活での課題などが検討されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村開催の研修に積極的に参加し、事業所の問題点などあれば、その都度相談し協力を仰いでいる。この度のコロナウィルスの影響で不足しているマスクや消毒液なども調達していただき助かっている。	行政と共に、生活課題のある市内の高齢者支援について連携して行っている。医療機関とも連携し、地域での生活困難な方の入所等について、検討を重ねている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや、研修に参加し職員全員に理解を周知徹底している。やむを得ず、身体拘束する場合は身体拘束廃止委員会で話し合い、緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知することで身体拘束を行いケアに努めている。	身体拘束防止委員会を設置し、職員全体で取り組んでいる。身体拘束防止マニュアルを通じて職員研修で再確認を行っている。日中は玄関に施錠はしていない。外出傾向が高い利用者について、付き添いが行われている。近隣の方に声掛けなどを依頼している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対して意識の共有を図り、お互いの言動などにも注意するなどして、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会に参加し、習得してきた知識を勉強会を通して情報共有し、必要性がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。	利用者の中に数名、成年後見制度を利用している方がいる。金銭管理の問題などに困る家族に対して制度の説明を行っている。また、職員への外部研修への参加機会が設けられている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際に、事業所の運営理念を説明し、疑問や不安等を伺い、十分に理解し、納得を得て契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントなどに家族の参加を募り、コミュニケーションを図りながら意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めているが、面会禁止になってからは、電話や通信などで状況報告を行い、家族からの意見や要望は職場会議で情報共有し実施、運営に反映させている。	利用者が運営推進会議に参加している。面会方法や利用者の生活について家族からの要望を運営に取り入れる努力をしている。利用者に対して、苦情や意見を出せる方法を掲示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、毎月のミーティングや勉強会、ケースカンファレンス等で職員の意見や提案を聴く機会をもうけ、企業全体では、全体ミーティングと称し、勉強会、情報交換を行い運営の質の向上に努めている。	職員の意見や提案を参考にして、食事内容の変更や行事企画を計画している。気付いたことを「思い付きノート」に職員が記録して、管理者は運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を把握し、働きやすい環境や条件の整備に努めている。ストレスチェックも実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力を理解し、その能力が十分に発揮できるように努めている。	職員採用にあたり、性別や年齢での差別はしていない。職員の構成も60歳以上の方が相当数いる。研修や教育機会も全員が公平に提供されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や定期的に勉強会を行い、人権について学ぶ機会を設けている。	外部研修にも職員全員が公平に参加できる体制がある。職員は1年に2回、外部研修を受け、内部への伝達研修が行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員としての質の向上や、ケアの質の向上のために定期的な勉強会及び外部研修に積極的に参加している。しかし、新入社員に対して企業方針などの教育が充実できていない。そのため、年三回企業全体の情報交換やスキルアップのために全体会議を設けた。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで、同業者との交流を図っている。また、全体会議導入において他の部署との交流が増えた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の個性を把握し、傾聴受容の姿勢で安心して生活していただけるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望を把握し、安心できるよう連絡を密に取り、信頼関係を築ける様努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、情報収集に努め求めている事を把握することで、支援に繋げていく。また、福祉用具など本人の機能や能力に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における動作、食事の後片付けや掃除、洗濯物干し・洗濯物たたみなどできる機能を低下させない程度に、職員と共に行い協同者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会やイベント参加時、きずな通信等で情報の提供や情報交換を、積極的に行い家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理髪店の利用や馴染みの場所へのドライブ、買い物も継続して行っている。	利用者のなじみの人々について聞き取り、来訪や訪問、手紙電話などで関係性の継続に取り組んでいる。職員は回想が利用者の記憶や健康に良い影響を与えることを理解し、なじみのある音楽を聴くなど回想の機会を作っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握し、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にできるように努めている。毎月一つの作品を皆で分担して完成させることで、共同達成感を味わっていただいている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時においての電話連絡等、フォローを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴を把握し本人の能力、心身状態に合わせたケアを行えるように努めている。	本人の生活歴や希望等は、入居時に本人・家族から聞き取り、アセスメントや介護計画に反映している。日々の暮らしの中で本人の意向や興味、関心等を適時、把握し、職員間で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取りケアに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し本人のペースに合わせてケアを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、毎月1回全員のケースカンファレンスを行い職員の見解、家族や本人の希望を把握し計画を作成している。	介護計画は、関係者出席のもとで、定期的に行われている。モニタリングは毎月のケアカンファレンスの場で行われ、課題の解決や取り組み方法等、現状に即した介護計画が策定されている。介護計画の内容は都度、家族に報告され同意を得る取り組みが行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有しケアに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出、外泊等や、個々にあったりハビリ、レクリエーション、医療連携等柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園への散歩やコンビニへの買い物、地域交流センターの文化祭参加などを行うことで地域資源の活用、交流を図っていたが、2月からは実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によるかかりつけ医の確保、定期受診等、適宜支援している。	かかりつけ医（提携医）による定期的な訪問診療や必要に応じた他科受診及び訪問歯科診療等が実施されている。緊急時対応や日頃の健康管理を含めた、適切な医療支援が行われている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め、又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院中はお見舞いに行くなどし、医療連携室との密な連携をとっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師看護師等が常に話し合いの出来る環境を整えている。	重度化、終末期については、重要事項説明書に明記され、入居時点で利用者、家族に説明、同意を得る取り組みが行われている。利用者の重度化傾向に対応して、早い段階から医療、看護等の諸課題について本人、家族と関係者間で共有し、チーム支援への取り組みが行われている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加、勉強会を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し見えるところに貼っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っている。しかし、地域との協力体制は構築できていない。	地域の消防署参加のもと、防災訓練が定期的実施されている。ホーム独自の避難訓練や夜間想定等の訓練等も実施されている。その他、マニュアル整備や避難場所の確保ハザードマップ及び防災頭巾、非常食、飲料水の確保等の取組が行われている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の出来る事を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努め、利用者様を尊重する気持ちを大切にするとともに、職員同士が注意しあえる仲間づくりをめざし、介護者としてあるべき姿を常に心掛けるように努めている。	接遇やマナー等の研修に、積極的に取り組んでいる。日々の介護では、あからさまな介護ではなく、さりげない介護、寄り添う介護に留意し、誘導や声かけ等における利用者へのプライバシー保護について特段の配慮を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身が自己決定できるように、状況や場面づくりに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、一人ひとりの想いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣、好みの合わせて、本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には職員が気温や季節感を考慮し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間ごとに献立表を張り出し、利用者様に見て頂いたり、季節弁当の利用もしている。また、裏庭で作っている野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節感を味わっていただいている。食後にはテーブル拭きや、お盆、食器拭き等役割を決めて一緒に片付けを行っている。	旬の食材と栄養バランスに配慮した食事が提供されている。同時に検食も実施されている。時には、自家栽培の野菜が食卓を賑わし、食を通じて季節感が得られている。また、一週間ごとの献立表が掲示され、利用者も関心を寄せている。行事食、誕生日食等を通じて食べる楽しみになるよう支援が行われている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状況に応じた食事形態を提供し食べる量や栄養のバランスを考え補助食品等も導入している。水分チェックも行い、1日1000mlは摂れるように援助している。アレルギー対応も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。また、週に1度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに基づいて、早めの誘導に努めている。自立傾向の利用者にとって、紙パンツから布パンツへの切り替えに成功した事例が見られる。排泄の自立支援に向けた取組みが行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、便秘体操や腹部マッサージ等を取り入れ、状態に応じて医師処方での緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に週2回の入浴を行っている。時には入浴剤を入れたり、季節に応じ菘蒲湯を楽しんで頂いたりしている。拒否がある場合は無理強いをせず、順番を入れ替えるなどして本人のペースに沿ったケアを行っている。	入浴は週2回を基本としているが、浴槽は湯が入っていて、常時入浴可能な状況となっている。その他、シャワー、足浴、清拭等の対応もとられている。また、菘蒲湯、ゆず湯、入浴剤や入浴後の保湿ケア等の入浴支援に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄交換を行い常に気持ちよく入眠できるよう援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し、作用副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で確認し誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて薬の形態もその人に合ったものを選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、めだかの餌やりなど個々の能力に応じた役割を持っていただき、日々やりがいを感じられるよう配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が外出したい場合は家族の協力を仰いだり、毎月の行事でお花見ドライブに行ったり、誕生日にあわせて外食に行ったり、季節の衣替えの時期には一緒に買い物に行ったり、散歩がてら近隣のコンビニに行ったりし戸外に出る機会を多く持っているがコロナウィルスの影響で2月からはできていない。	日常的には、ホーム周辺の散歩や近所のコンビニへの外出を行っている。通常では、ドライブや外食など定期的に外出行事が実施されてきたが、今般の「新型コロナ感染症」により、利用者の期待に応えられていない。戸外での活動に制限があるため、ホーム内でのアクティビティやテラスでの喫茶などでカバーしている状況である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に施設で管理しているが、コンビニで少しの買い物などの場合は自分で支払いができる様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親族からの電話の際はプライバシーを保ちながら対応し、自分で使えるようであれば、携帯電話の所持もして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を利用者様と一緒に制作して飾ったり、家庭的な雰囲気を感じて頂ける工夫をするように努めている。また、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。コロナウィルスの影響で毎日、次亜塩素水で消毒をしたり、空間除菌にも注意を払っている。	ホーム周囲の果樹、菜園、玄関のメダカ、ゴーヤのグリーンカーテン等々、落ち着いた環境となっている。吹き抜けとなっているリビングに繋がっている喫茶テラスで憩いの空間づくりを行っている。リビングには、職員との共同制作の季節感の溢れる作品群が掲示されている。空間除菌にも注意が払われ、利用者が居心地よく過ごせる工夫が感じられる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性などを考慮し、好きなことができる様に、それぞれの居場所づくりを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている馴染みの家具や物品を、居室に配置し落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。	居室は、安全に配慮された清潔な居住環境が確保されている。使い慣れたもの、思い出のもの等々、安心して休める空間となっている。利用者一人ひとりの個性を尊重した部屋づくりとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー、物の場所などできる限り自分の力で生活できる空間作りをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為足元センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
			○	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の利用者様のやりたい時にやりたい事や思いを理解する介護。また、身体拘束を行わず、地域活動に積極的に参加する理念を挙げ、職員の目に入るところに掲げて全員がその理念を目標にし、実践できるように日々努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、ボランティアによりギター演奏やバンド演奏をして頂いたり、地域交流センターの文化祭に出展するなどして交流をはかったり、近隣の中学校の福祉体験を受け入れ、レクレーションを通して交流を図っていたが、コロナウィルスの影響で2月からは実施できていない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の面会時には必ず現状をお伝えし、認知症の人の理解や支援を行って頂くようコミュニケーションを図っている。また、認知症の方にもできることがあることを知って頂くため、制作物を地域の文化祭に展示している。しかし、コロナウィルスの影響で難しい為、きずなの活動を知って頂くため、ブログの投稿で情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の開催のため、2か月間の状況報告と、対応に困っている事案などを相談し、意見やアドバイスをいただきサービスの向上に努めている。しかし、地域の方やご家族の参加が無く、どのように参加を促すかが常に課題である。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村開催の研修に積極的に参加し、事業所の問題点などあれば、その都度相談し協力を仰いでいる。この度のコロナウィルスの影響で不足しているマスクや消毒液なども調達していただき助かっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや、研修に参加し職員全員に理解を周知徹底している。やむを得ず、身体拘束する場合は身体拘束廃止委員会で話し合い、緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知することで身体拘束を行いケアに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対して意識の共有を図り、お互いの言動などにも注意するなどして、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会に参加し、習得してきた知識を勉強会を通して情報共有し、必要性がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際に、事業所の運営理念を説明し、疑問や不安等を伺い、十分に理解し、納得を得て契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントなどに家族の参加を募り、コミュニケーションを図りながら意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めているが、面会禁止になってからは、電話や通信などで状況報告を行い、家族からの意見や要望は職場会議で情報共有し実施、運営に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、毎月のミーティングや勉強会、ケースカンファレンス等で職員の意見や提案を聴く機会をもうけ、企業全体では、全体ミーティングと称し、勉強会、情報交換を行い運営の質の向上に努めている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を把握し、働きやすい環境や条件の整備に努めている。ストレスチェックも実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力を理解し、その能力が十分に発揮できるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や定期的に勉強会を行い、人権について学ぶ機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員としての質の向上や、ケアの質の向上のために定期的な勉強会及び外部研修に積極的に参加している。しかし、新入社員に対して企業方針などの教育が充実できていない。そのため、年三回企業全体の情報交換やスキルアップのために全体会議を設けた。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで、同業者との交流を図っている。また、全体会議導入において他の部署との交流が増えた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の個性を把握し、傾聴受容の姿勢で安心して生活していただけるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望を把握し、安心できるよう連絡を密に取り、信頼関係を築ける様努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、情報収集に努め求めている事を把握することで、支援に繋げていく。また、福祉用具など本人の機能や能力に応じたサービスを提供できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における動作、食事の後片付けや掃除、洗濯物干し・洗濯物たたみなどできる機能を低下させない程度に、職員と共に行い協同者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会やイベント参加時、きずな通信等で情報の提供や情報交換を、積極的に行い家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理髪店の利用や馴染みの場所へのドライブ、買い物を継続して行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握し、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にできるように努めている。毎月一つの作品を皆で分担して完成させることで、共同達成感を味わっていただいている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時においての電話連絡等、フォローを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴を把握し本人の能力、心身状態に合わせたケアを行えるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取りケアに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し本人のペースに合わせてケアを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、毎月1回全員のケースカンファレンスを行い職員の見解、家族や本人の希望を把握し計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有しケアに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出、外泊等や、個々にあったりハビリ、レクレーション、医療連携等柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園への散歩やコンビニへの買い物、地域交流センターの文化祭参加などを行うことで地域資源の活用、交流を図っていたが、2月からは実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によるかかりつけ医の確保、定期受診等、適宜支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め、又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院中はお見舞いに行くなどし、医療連携室との密な連携をとっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師看護師等が常に話し合いの出来る環境を整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加、勉強会を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し見るところに貼っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っている。しかし、地域との協力体制は構築できていない。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の出来る事を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努め、利用者様を尊重する気持ちを大切にするとともに、職員同士が注意しあえる仲間づくりをめざし、介護者としてのあるべき姿を常に心掛けるように努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身が自己決定できるように、状況や場面づくりに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、一人ひとりの想いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣、好みの合わせて、本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には職員が気温や季節感を考慮し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間ごとに献立表を張り出し、利用者様に見て頂いたり、季節弁当の利用もしている。また、裏庭で作っている野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節感を味わっていただいている。食後にはテーブル拭きや、お盆、食器拭き等役割を決めて一緒に片付けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状況に応じた食事形態を提供し食べる量や栄養のバランスを考え補助食品等も導入している。水分チェックも行い、1日1000mlは摂れるように援助している。アレルギー対応も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。また、週に1度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、便秘体操や腹部マッサージ等を取り入れ、状態に応じて医師処方の方の緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に週2回の入浴を行っている。時には入浴剤を入れたり、季節に応じ菘蒲湯を楽しんで頂いたりしている。拒否がある場合は無理強いをせず、順番を入れ替えるなどして本人のペースに沿ったケアを行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄交換を行い常に気持ちよく入眠できるよう援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し、作用副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で確認し誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて薬の形態もその人に合ったものを選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、めだかの餌やりなど個々の能力に応じた役割を持っていただき、日々やりがいを感じられるよう配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が外出したい場合は家族の協力を仰いだり、毎月の行事でお花見ドライブに行ったり、誕生日にあわせて外食に行ったり、季節の衣替えの時期には一緒に買い物に行ったり、散歩がてら近隣のコンビニに行ったりし戸外に出る機会を多く持っているがコロナウィルスの影響で2月からはできていない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に施設で管理しているが、コンビニで少しの買い物などの場合は自分で支払いができる様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親族からの電話の際はプライバシーを保ちながら対応し、自分で使えるようであれば、携帯電話の所持もして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を利用者様と一緒に制作して飾ったり、家庭的な雰囲気を感じて頂ける工夫をするように努めている。また、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。コロナウィルスの影響で毎日、次亜塩素水で消毒をしたり、空間除菌にも注意を払っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性などを考慮し、好きなことができる様に、それぞれの居場所づくりを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている馴染みの家具や物品を、居室に配置し落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー、物の場所などできる限り自分の力で生活できる空間作りをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為足元センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		